

平成25年度 地域発 元気づくり支援金事業総括

事業名	障老学連携 地域の元気を畑から創り出す事業
事業主体 (連絡先)	ファーマーズコム新村 0263-47-5130 (赤澤)
事業区分	(2) 保険、医療、福祉の充実に 関する事業 (6) 産業振興、雇用拡大に 関する事業：イ農業の振興と農山村づくり
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	757,552円 (内支援金 531,000円)

事業内容

1) 障がい者の仕事づくり

農家と大学と障がい者が連携し、野菜栽培を行ない、地域に開かれた福祉を切り開き、障がい者の就労、地域活性を図った。

2) 農産物直売所の開設

農産物直売所を開設し、販売作業を「第2コムハウス・ゆい」に委託し、地域との交流、就労支援を行なった。

3) 農を通じた就労支援セミナーの開催

農を障がい者就労に先駆的に導入している先駆的施設の実践者と大学研究者とが、その方法と課題を討論する公開セミナーを開催した。



【食用ほうずきの収穫】

※1 自己評価 (事業実施率)

【 A 】

事業効果

野菜栽培は食用ほうずきやナス、ネギ、サツマイモなどを栽培したが、作業に不慣れなため課題を残した。しかし家族会の賛同を得て、農を通じた就労の可能性を確認できた。

直売所での販売は、84日間、127万余となり、就労支援の仕事としての可能性を確認でき、また地域との交流の場となった。食用ほうずきは松本食用ほうずきは大学に商品開発を依頼し、加工販売を展望した。

就労支援セミナーは、参加者53名、松本大学の尻無浜先生を中心に先駆的実践者5名がパネラーとなり、地域の福祉ネットワークの第一歩となった。

【目標・ねらい】

- 農産物の栽培と販売を通じた就労支援
- 地域に開かれた障がい者就労施設を支援
- 障老学連携の地域ネットワークの形成

※2 自己評価 (事業効果)

【 B 】

今後の取り組み

1. 就労支援農園作業を年間作業体系の中に確立し、計画的栽培—収穫—販売ができるようにする。
2. 会員農家による農作業委託、施設外農業就労を積極的に行なう。
3. 家族会とともに、農作業、収穫祭等の行事、施設美化などの施設支援を行なう。
4. 第2回セミナーを開催し、地域に開かれた福祉施設ネットワークを広げていく。

※1 自己評価 (事業実施率) 欄は、「A」90%以上、「B」70~89%、「C」50~69%、「D」49%以下で示すこと。